

---

# 将来は何になる？

上白沢

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

将来は何になる？

### 【Nコード】

N4918P

### 【作者名】

上白沢

### 【あらすじ】

将来何になるか？

そんな事を悩んでいる少年と家なし少女とその友達がおくる日常生活？がいま始まります。

始まりは、行き倒れ？（前書き）

初めて小説をかきます。

間違えばかりですけど、がんばって行きます。

始まりは、行き倒れ？

チュンチュン

外で雀がさえずっている。

時計は、朝7時をさしている。「あと五分……zzzz」

ドタドタドタ バタン！

「オツキロー！朝だバカヤロー！」

「気にするなバカヤロー…zzzz」

「実の兄が冷たい！これがいわゆる家庭崩壊なのかぁー！」

「ああもう騒がしくて寝れないじゃないか！今何時だと思ってるんだ！」

「朝の8時だよ？」

「な、に？」

「だから、朝の8時だってば。早く学校に行かないと遅刻だよ？」

「なにー！！8時だとー！なぜもつと早く起こさないのぉー！」

「だって昨日お兄ちゃんが8時までには、絶対起こすなって、起こしたら次からは、俺の隣に女の子を置いて起こしづらい状況にしてやるって脅すから」

「そんなの真に受けるな！このおバカちゃんが！」

「ひ、ヒドいよ逆切れだよ」  
ドタバタドタバタ

「うるせんなああのバカ共は。」

「あら、良いじゃありませんか？毎日朝から楽しいわよ。」

「まあな」

ダダダダダタン！

「母さん飯！」

「ハイハイ、準備してあるわよ」

「頂きます。」

もぐもぐ

「ごひほふさまでひたー（ごちそうさまでしたー）」

「「行つてきまーす」」

「「いってらっしゃい。」」  
「行ってこいバカ共。」

慌ただしい朝は、いつも通りだ。

キンコーンカーンコーン

「到着！ふーっ危うく遅刻するところだったぜ。」

「よう、ギリギリだったな。」

「誰だ貴様は？」

「ひどい！親友への朝の第一声がそれかよ？」

「冗談だ。おはよう佐藤。」

「ああおはよ。だが、俺の名前は沢下だ！」

「そんな名前だったのかお前？全く近所の犬と間違えたじゃないか。」

「犬名前が佐藤かよ！どんな嘘だよ！」

「いや本当だし。」

「本当なのかよ！」

「いちいちウルサイな！お前はツッコミ役には向いてないから黙ってる雄輝。」

「悪かったよ！ツッコミにむいてなくてなあ！」

ダダダダガラッ！！

「シロちゃんおっはよー！」  
「ぐえー！」

「おっおはようさん心結。」

「会いたかったよ。」

「昨日も会ってるけどね。」

「毎日会いたいんだよ。」

「あつそ。まあそれは、いいとしてそろそろ退いてやれ。雄輝が白眼むいてやがる。」

「あつごめんなさい。大丈夫ユウくん」

「う、うーん目覚めのキスをしてくれたら、起きれる。」

「それ無理。私にはシロちゃんがいるから。」

「うわーん。朝からのろけかよ。うらやましいぞチキショー！」

「彼女じゃないけどね。」

「彼女以上だよな」

「ドコまでの関係だよそれ？」  
「奥さんでしょ？」

「何時からだよ！」

「運命なの！決まってたことなんだよ。」

ガラガラピシヤリ！

「お前らーウセッーさっさと席につきやがれ！」

「「「はい。」」」

担任の森直人のの声により席について。

「ホームルーム始めるぞ。今日は、後で進路希望の紙を渡すから、明日までに俺に持ってこい以上」

なんて適当な担任なんだ。まあもっさんのそういうところは、話しやすかったりするから、いいところなんだよなあ〜とかを考えながらプリントを眺めていた。すると、

「なあシロお前進路決まってるの？」

「いや、まだだ。」

「そうなの？」

「家は継がないの？」

うちは、老舗の料亭を営んでいるが、親は、全く強制しないので、継ぐことは、考えてない。

「考えてない。お前は？」



「うん。一応は、大学進学かなあ」

「みんなそんなもんなあ。」

「あのねあのね私はね、シロちゃんのお嫁さんだよ。」  
話にわって入ってくる心結。

「その希望は、来世で叶えてあげるな。」

「現世がいいよ。まあ来世もけどね。」

「うおー俺も彼女欲しい！」

「来世でな」

「俺のもかよ！」

そんな話をしながら今日の授業を受けた。

放課後

「さてと帰るか。」

「俺は用事があるから、また明日な。」

「ごめんねシロちゃん。私も委員会あるから、また明日一緒に帰ろ  
うね。」

「おう、また明日なあ。」

今日は、珍しく独りで帰ることになった。

「進路かあ〜どうしようかなあ」

なんて考えながら歩いていると、倒れている女の子をみつけた。というより、どちらかというつつ伏せで何かしていた。

「なにしてるんだ？」

少し気になって近づいて聞いてみた。

「何してるの？」

女の子は、振り返って言った。

「水を飲んでる。」

「水を飲んでる？」

コクリと彼女は、頷いてまた水を飲み始めた。  
つてダメでしょ！

「いやいや、ダメだよ水溜まりの水なんて！」

「？」

「？じゃなくて、体壊すよ！」

「水飲まないと倒れるし、お腹空く。」

「水溜まりの水を飲んだら、お腹壊すよ！」

「私に死ねって言っの?」

「そうじゃなくて、自販機でジュースでも買えばいいじゃん!」

「そんなお金ない。」

「なら家まで我慢すればいいじゃん!」

「家ない。」

へ?

「家がない?」

コクンとまた彼女は頷いた。

なんてこった。家出かなんかな?警察に連れてくか?

バタリ女の子は、倒れた。

「わああ大丈夫!ねえおいつてば!」

どうしよう?この場に残すわけには、いかないよなあ

「仕方ない家に連れてくか。」

これが、彼女との初めての出会いだった。

始まりは、行き倒れ？（後書き）

何とか書いてみました。

次話は、来週辺りまでに書けたらなと思います。

感想など会ったらよろしくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4918p/>

---

将来は何になる？

2010年12月14日08時07分発行